地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その15

文：矢部 征男さん

新町遺跡の出土遺物

石皿［高さ8㌢×幅16㌢×奥行26㌢］

奥川新町集落に、珍しい大きな石棒と石皿が遺されています。石棒の一つは半分程が欠損していますが、円筒形で長さが約19㌢、直径が約9㌢あります。もう一つの石棒は長さが約20㌢、直径が12㌢ほどです。また、石皿は割れて半分のみが残っています。ふちどりがあり、中央部分にこぶし大ほどの凹部が見られます。石皿は足付きで高さが8㌢ほど、幅が約16㌢、奥行が約26㌢あります。この石棒・石皿は旧奥川中学校跡地周辺の「新町遺跡」から発見されたもので、新町集落が大切に保管しています。石棒や石皿は、町内では野沢地区の3カ所、尾野本地区の1カ所、奥川地区の新町・小屋集落の2カ所と合わせて6カ所から発見されています。いずれも縄文時代中期（今から約5500～4500年前ごろ）のものといわれています。

石棒［手前が長さ19㌢×直径9㌢］

この時代は、広場を囲んで敷石のある竪穴住居が建ち、集落がつくられた時代であったといわれています。栗やクルミなどの木の実・山菜・キノコなどを食料とするほか、森に棲む野うさぎなどを力を合わせて狩り、奥川の清流に棲む魚を捕り食料にする生活であったのでしょう。石皿は木の実を粉にしたり練ったりするための用具であり、動物の骨などを砕く際にも使われたと考えられています。また、独特の形状をもつ石棒は集落の子孫繁栄・豊かな実りなどを願う信仰的な意味をもって作られたといわれています。

いずれにしても、奥川谷では、豊かな自然の恵みとともにある暮らしが古い時代から続いているのです。

参考文献　『西会津町　続編第壱集　縄文・弥生式文化遺跡』

今月の表紙

今月の表紙は、6月17日に開催された奥川健康マラソン大会の小学5・6年女子2キロの部のスタートです。青空の下、大勢のランナーが初夏の奥川路を駆け抜けました。

※12～13ページに大会のフォトギャラリーを掲載。

編集後記

大勢のランナーと観客でにぎわった奥川健康マラソン。この大会は、昭和51年にランニングを愛する「奥川へとへとクラブ」の皆さんによって産声を上げ、以来、奥川地区をはじめとした町民の皆さんと町などが手を携え、協力しながらその歴史を刻んできました。

奥川地区の皆さんは、6月になると沿道の草刈りやのぼり旗立てなど、奥川健康マラソン一色になるそうです。奥川地区の人口を超えるランナーが集まる特別な日。いつまでも続いてほしいイベントです。

来年は久しぶりに…　長谷川祐一

Nishiaizu
広報にしあいづ №717　平成30年7月号
発行／福島県西会津町　編集／企画情報課　TEL 0241-45-2211（代表）
ホームページ　https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/
PRINTED WITH SOY INK
この広報紙は、環境に優しい大豆油インキを使用しています。